

「厚生年金への地方議会議員の加入を求める全国大会」

主催者代表挨拶

主催者を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、「厚生年金への地方議会議員の加入を求める全国大会」を開催しましたところ、皆様には大変お忙しい中、このように大勢のご参加をいただき誠にありがとうございます。

また、ご来賓の皆様におかれましては、ご多用の中、ご臨席いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

ご案内のとおり、地方議会議員年金制度は、市町村合併の急速な進展に伴う議員数の削減などにより、財政状況が悪化し、持続的な制度として存続することが困難となったため、平成23年6月に廃止となりました。

衆・参両議院の総務委員会では、制度廃止法案を採決する際、「概ね1年を目途として、国民の政治参加や地方議会における人材確保の観点を踏まえた新たな年金制度について検討を行う」旨の附帯決議を、全会一致で可決されております。

今日、社会経済の構造変化が進む中、多様な意見を地域の政治行政に反映する地方議会の役割は、今後ますます重要となってまいります。

地域社会の活性化、住民福祉向上に志を抱く誰もが、議員として参画しやすい環境を整え、多様な議員のなり手を確保することは、地方議会の喫緊の課題であります。

私ども三議長会が求める「厚生年金への地方議会議員の加入」は、地方議会が抱えるこの課題解決に大いに寄与するものであります。

厚生年金加入により、新たに 160 億円の公費負担が生じることについてご批判もございますが、旧議員年金制度の廃止の大きな要因となった平成の大合併や行革によって、議員数は約 3 万人減少し、議員報酬手当の削減により、これまでの累計で 1.5 兆円を上回る程度の財政負担が軽減されている事実もございます。

また、地方議会議員のみを対象とした旧議員年金制度の復活を求めるものでもなければ、地方議会議員のみの特別な制度を新たに創設するよう求めるものでもありません。

本日の大会には、ご来賓として、各政党の代表の方々にご臨席いただいております。

国におかれましても、地方議会の現状と、この大会の趣旨を改めてご理解いただき、今後、厚生年金への加入に向けてお力添えいただきたいと存じます。

また、本日ご出席の皆様方におかれましては、この後の大会決議にご賛同のうえ、与野党を問わず、地元選出の国会議

員に働きかけを行っていただくとともに、所属の議会で意見書を提出されていない場合は、意見書を国に提出していただくよう、ご尽力をお願い申し上げまして、開会のご挨拶といたします。